

1	組 織 名 称 (略 称)	Distributed Management Task Force(DMTF) http://www.dmtf.org/						
2	分 類	活動目的	◎	仕様策定	—	実装・検証	オープン ソース	該当なし
			—	試験・認証	○	普及・啓発		
			—	その他()				
	対象技術分野	⑦ 情報技術(クラウド・プラットフォーム関連)			対象サービス	サービスには該当なし		
	技 術 M A P	活動エリア	① 固定系領域を中心に活動を実施			活動領域	④ MDL 領域の活動を実施	
3	目 的	DMTFは分散環境におけるITシステムの管理技術の標準を作成、推進、維持管理することを目的とする標準化団体である。作成した標準のコンFORMANCE認証も行っている。これまで分散環境での標準化に多くの実績があるが、これらの実績をベースにクラウドコンピューティング環境の管理や相互運用性の標準化にも取り組んでいる。						
4	組 織 構 成	・Technical Committee 技術的検討を行う。配下にWG、Forum、Task Forceがある。 ・Alliance Task Force: メンバー間の連携や他の標準化団体とのリエゾンを形成、維持する。また、シンポジウムなどを開催する。 ・Marketing Task Force: 産業界や一般社会とのコミュニケーションを図り、ニーズを吸い上げる。 ・Process Task Force 管理システムの相互運用性をより広範囲に進めるため、新しい活動領域を調査検討する。 ・Regional Chapter Task Force DMTFの地域毎の仕様を定めた章の開発を行う。						
5	参 加 資 格 費	オープンな団体であり、営利企業でも非営利組織でも個人でも参加できる ・リーダシップメンバー - \$12,000/年(エンドユーザ/官庁は\$6,000) 全委員会への参加及び投票権、WG設立、議長立候補など全ての権利を持つ。 ・一般参加メンバー - \$6,000/年(エンドユーザ/官庁は\$3,000) DMTF成果物を受領でき、マーケティングまたは技術委員会に参加できる。認証プログラムに参加できる。イベント参加、情報配信、会員用webサイト参加。 ・モニターメンバー - \$2,500/年 イベント参加、情報配信、会員用webサイト参加。 ・アライアンスメンバー - 無料 他の標準化団体、非営利団体が対象。全てのWGへ参加できるが投票権はない。 ・アカデミックメンバー - 無料 学術機関が対象。全てのWGに参加できるが投票権はない。						
6	主 要 メ ン バ (2018年MM月現在) (注1)	主要メンバー: ・ボードメンバー 12社(うち日系1社:日立) Broadcom, CA Technologies., Dell Inc., Hewlett-Packard Enterprise, Hitachi, Intel Corporation, Lenovo, NetApp, Software AG, Vertiv, VMware, HP Inc. ・リーダシップメンバー 13社(うち日系0社) Advanced Micro Devices, Arquimedes Automacao e Informatica Ltda, China Academy of Communications and Information technology(CAICT), China Electronics Standardization Institute, CISCO, Daten tecnologia Ltda, Ericsson AB, Getac Technology Corp., Huawei, Inspur, Mellanox Technologies, Positivo Tecnologia S.A. , Supermicro 会員数:142 うち日系企業数:3						

7	他団体・組織との関係	アライアンスパートナーとして以下の団体が登録されている。 ASHRAE、BBF、CCSA、CESI、CSCC、ETSI-NFV、NVM Express、OCP、ODCC、Open Grid Forum、OpenStack Foundation、PICMG、SNIA、TMForum、The Green Grid、The Open Group、UEFI		
8	TTC活動との関連性(注2)	TTCの専門委員会活動との関係(☑関係あり、☐関係なし) 関係する場合の専門委員会名(右欄より選択) 理由: クラウド関連を取り扱っているため	Network Vision	
9	活動状況	<ニュースリリース> ・共通情報モデル(CIM)バージョン 2.51 をリリース 18 Jun 18 ・システム管理 BIOS(SMBIOS)参照仕様バージョン 3.2 をリリース 31 May 18 ・Redfish®標準を Software Defined Data Center (SDDC)のために新たにスキーマと開発者向けリソースを追加した。23 May 18 ・DMTF と PICMG Form Alliance (PCI Industrial Computer Manufacturer Group)と IIoT 分野でアライアンスを組む 9 May 18 ・DMTF の Redfish® 標準が ISO/IEC 30115:2018 として国際標準として制定された。25 Apr 18 ・Redfish®デバイスで利用できる新しい Platform Level Data Model (PLDM)をリリースした。1 Mar 18 ・Redfish 2017.3 をリリースした。16 Jan 18 ・Redfish®のオープンな展開のため、GitHub上で動く試験・評価用ツールをオープンソースとしてリリースした。14 Dec 17		
10	設立時期	1992年		
11	本部所在地	1001 SW 5th Avenue, #1100 Portland, OR 97204 503.220.1655 (main line) 503.296.2432 (fax)		
12	関連標準化技術	・Webベースのエンタープライズ環境の管理(WBEM) エンタープライズにおけるコンピューティング環境を一元管理するために開発された一連の管理およびインターネット標準テクノロジー ・アラート標準フォーマット(ASF) OS不在のクライアント環境に最適リモート制御及びアラートインターフェースを定義 ・オープン仮想化フォーマット(OVF) 仮想アプライアンスの可搬性と展開に対処するために設計されたパッケージング標準 ・システム管理BIOS(SMBIOS) ・デスクトップ管理インターフェース(DMI) ・構成管理データベース連携(CMDBF) ・プラットフォーム管理機能間通信(PMCI)標準 ・Redfish		
13	権利関係(I P R Policy, B y l a w s など)	DMTF Patent and Technology Policy: http://www.dmtf.org/sites/default/files/patent-10-18-01.pdf Bylaws: http://www.dmtf.org/sites/default/files/Bylaws_fourth_amended_3-1-2013_2.pdf		
14	備考(普及状況など)	DMTFの標準インターフェースは、マルチベンダー構成のITインフラストラクチャ間、クラウド、仮想化、デスクトップ、ネットワーク、サーバー及びストレージを含むシステム及びネットワーク管理の相互運用性を可能にする上で欠かせない標準となっている。		
15	更新年月	2018年6月28日	初版作成	担当: 齊藤(OKI)
		2018年7月27日	更新	誤記訂正等

(注1) 日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注2) 「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会の活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名と関連している部分等を記載する。